＜先週の説教から＞

『詩編㉔ー とこしえの門よ、身を起こせ！』　武田真治牧師

詩 編　２４：１～１０　マタイ福音書 ５：８

この詩編の最初１～２節は“天地創造を賛美する”言葉であり、新約聖書でパウロがここを引用して「市場で売っているものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。『地とそこに満ちているものは、主のもの』だからです。」と、当時ユダヤ教の仰々しい食物規定（＝食べて良い物と汚れている食べ物を分ける）にキリスト者は囚われなくてよいということを論証していることでも有名です。

ただ、この詩編の中心はその次の部分でしょう。3節は「どのような人が、主の山に上り、聖所に立つことができるのか」と始まります。「主の山」とは“シオンの山”のことで、そこにはエルサレムの都があります。その山にある「聖所」とは当然“エルサレム神殿”です。その都に「上り」、聖所に「立つ」ことは、従って《エルサレム神殿への巡礼》を指していることになります。その上で「どのような人が～立つことができるのか」と問うており、これは神殿での礼拝やお祭りに参加するには“どのような人が【ふさわしい】のだろうか?”と問い掛けていることになるのです。この問いに答えて4節で「それは、潔白な手と清い心をもつ人」と言われているのです。このようにこの詩編 24 篇は全体が問答形式になっているのです。そしてこの問答は、おそらく都に向かう“巡礼の旅”の途中に同じ旅する仲間同士で歌い交わした（あるいは、先導する地方の祭司と巡礼者たちとの）問答が土台になっているのだろうと。この問答をすることで、神殿に向かう心構えや姿勢を徐々に整えて行く効果があったのだろうと想定されているのです。昔は日本でも団体で伊勢詣り等をしていましたね（「講(こう)を組む」と言いました）。

今の私たちにとっては、まさに“礼拝に出る＝神様の前に立つ”にはどのような者が【ふさわしい】のかを教えてくれている言葉として読むことが出来るのではないでしょうか。それは「潔白な手と清い心をもつ人」だと！

「潔白な」と訳されている言葉（ナーキー）は（罪がない）という意味です。当時としては律法を守っている人ということでしょう。ただ、それだけでなく「清い心をもつ」人でもあれという点に私たちにも通じる教えとなっています。「清い」は（バル）という言葉で（混じりけがない）ことを言います。従って、この後「むなしいものに魂を奪われることなく」生きる人のことだと続きます。“一筋に主なる神様を慕い求める人”のことです。実は、イエス様が『山上の説教』の冒頭で「心の清い人々は幸いである、その人たちは神を見る」と言われておられる言葉はこの詩編が元になっていると言われています。その言葉の「清い」もギリシア語の（カサロス）であり（まじりけがない）ことを指す言葉なのです。イエス様も“一筋に主なる神様を慕い求める人”こそ“幸せな人”だと言われました。まさに当時の巡礼者たちが神殿の中へと入って行ったように、私たちも礼拝に集い、そして、いつか“天のみ国の礼拝”に集い、そこで《神様に見える》のです。一筋に主の十字架の赦しを求める者として！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

◉聖書研究・祈祷会　Ⅰ．8月 10 日（水）休会
Ⅱ．8月 11 日（木）休会

【教勢報告】

主日礼拝	男 23	女 52	計 75
祈祷会 Ⅰ.	男 6	女 3	計 9
祈祷会 Ⅱ.	男 3	女 9	計 12
日曜学校	幼稚科 4	小中科 10	計 14

【次週礼拝】　8月 １４日（日）

聖　書：詩 編　８５：９～１４
ペトロの手紙(１)　１：３～５

説　教：「平和聖日礼拝 ― 戦争と平和」
武田 真治 牧師

讃美歌：４１４(1)、３２(1)、３７１(1と2)、
４４３（1と4と5)、９１(1)

【次週当番表】

司式:金刺長老 奏楽:羽倉 礼拝:斎藤長老
献金：武田、圓谷　受付：鈴木、橘本
会堂準備：飯島、岡本、金刺、中村
看板：岩佐　週報：金刺　お花：休み

【次週集会予定】礼拝前：求道者会、聖書輪読会
礼拝後：壮年会、ダビデ会

６３－３２

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　８月　７日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/